

平成28年度 杉森高等学校 自己評価表

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
元気な挨拶を交わせるようになる	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を指導する。教師は率先して生徒に挨拶する。 朝の挨拶運動を行う。	○	多くの生徒は教師を信頼しており、指導によく応える。挨拶や適切な服装もかなりできるようになったがまだ十分ではない
節度ある身だしなみができるようになる	学科・学年に関係なく適切な服装指導を全職員で適時に行う。 全校で統一した基準による服装頭髪検査を実施する。 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。	△	
全員が基礎学力を身につける	共通教科（国語、数学、英語等）で基礎学力ノートを作製し活用する。 土曜日や7限目（放課後学習）を活用した基礎学習の取り組みを行う。	△	
		△	
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭や文化祭などの学校行事を充実させ生徒に達成感を味わわせる。	○	行事には積極的に参加しようとする態度が見られる。杉森高校らしい明るさを大切にしていく必要がある。
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	おもてなし委員会をとおして地域貢献活動を行う。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。	○	
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 開校記念日前の全校終礼において本校の歴史を学ぶ。	○	
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	ICT等の活用を図り分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブ・ラーニングを取り入れ生徒に考えさせ活動させる授業を目指す。 授業時間数の確保に努める	△	各学科や各教科では適切な指導が進められている。さらにきめ細かな連携と協力が必要である。
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机上进行を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。 授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。	△	
達成感を感じ自信を着ける	合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。	○	
		○	
		○	
		○	
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	生徒が無届けの遅刻・欠席をした場合は担任が保護者に連絡し協力して指導し、年間の遅刻回数・欠席日数を減少させる。 家庭での携帯電話使用ルールを決めさせて守るよう保護者と協力して指導する。	△	学校全体で規律を守ろうとする機運の醸成をさらに進める必要がある。
規範意識を身につける	交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。 学校内外で校則や法規を遵守することの意味を考えさせ意識を高める。	○	
5 その他の教育活動の活性化			
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切に指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。	○	生徒に自信を持たせ自尊感情を高めることが様々な課題の解決に繋がる。
確固たる進路目標と修学の意欲を持てるようになる	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を設定できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。	○	
クラブ活動が活性化	クラブ活動加入を奨励し加入率が70%以上になるようにする。 対外試合の予告や結果を掲示板に速報する。	×	
生徒会活動が活性化	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。	△	
6 各学科の活性化			
(食物科)	食の大切さを理解し、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。	○	各学科とも生徒と教師の信頼関係が築かれている。基礎学力の養成と意欲の喚起が大切である。
(看護科・看護専攻科)	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員合格させる。	△	
(福祉科)	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員合格させる。	△	
7 広報活動の活性化			
中学校や地域への発信を確実に	学校通信「杉翠（さんすい）」を発行し教育活動を発信する。 中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。 普通科2コース新設の情報発信を徹底する。	○	広報委員は精力的に活動している。中学校との強固な信頼関係構築が課題である。
を行う		○	

※具体的方策の実施に当たっては、教師や生徒の自己評価において好評価が概ね80%以上となることを目標とする。

平成29年度 杉森高等学校 自己評価表 (案)

達成目標	具体的方策	評価	課題
1 最重点目標			
元気な挨拶を交わせるようになる	教師生徒間及び生徒同士の挨拶の励行を実践する。教師は率先して生徒に挨拶する。		
節度ある身だしなみができるようになる	学科・学年に関係なく現場での服装指導を全職員で実践する。 服装頭髪指導に関する規定を検討する。 教師が率先垂範して適切な服装に心掛ける。		
全員が基礎学力を身につける	授業時間数の確保に努める 土曜日や7限目（放課後学習）を活用した基礎学習の取り組みを行う。		
2 杉森らしい校風の醸成			
明るく元気な学校を創る	体育祭や文化祭などの学校行事を充実させ帰属意識向上を図る。		
地域に貢献し、地域に愛される学校を創る	おもてなし委員会をとおして地域貢献活動を行う。 ボランティア活動を奨励し顕著な活動を行った個人やグループは表彰する。		
伝統を大切に生徒が誇れる学校を創る	始業式・終業式において校歌斉唱を実施する。 開校記念式等において本校の歴史を学ぶ。		
3 学力の向上			
丁寧な学習指導により学力が向上する	分かりやすく効率的な授業を目指す。 アクティブラーニング等、生徒が自主的能動的に活動する授業を目指す。 課外授業の充実を図る。		
授業規律を守ることができる	授業開始時に服装を正させ机上进行を整理させる。 開始のチャイム前に席に着くように指導しチャイムからチャイムまでメリハリをつけた授業を行う。 提出物の期限を守らせる指導を教科担当教師と担任等が協力して行う。 授業規律の指導に当たって学科・学年で協力し組織的に行う。		
達成感を感じ自信を着ける	合格点に確実に到達させる授業と考査問題を工夫する。 意欲を喚起する形成的評価の工夫を行う。		
4 生活規律の確立			
基本的な生活習慣を身につける	生徒が無届けの遅刻・欠席をした場合は担任が保護者に連絡し協力して指導し、年間の遅刻回数・欠席日数を減少させる。 言葉遣いや立ち居振る舞い等適切な言動行動を心掛けさせる。		
規範意識を身につける	交通ルールを遵守する指導を行い意識を高める。 学校内外で校則や法規を遵守することの意味を考えさせ意識を高める。		
5 その他の教育活動の活性化			
人権意識を身につけ人権を大切にできる行動ができる	全ての教育活動の中で、お互いの人権を大切にする指導を行う。 教師が生徒を一人の人格として尊重した対応をする。		
確固たる進路目標と修学の意欲を持てるようになる	体系的な進路学習を行い具体的な進路目標を設定できるように指導する。 個別の相談や指導の強化により年間の退学・転学者数を減少させる。		
クラブ活動が活性化	クラブ活動の活性化を図る。（加入率70%を目指す。） 対外試合の予告や結果報告等に掲示板を活用する。		
生徒会活動が活性化	生徒会行事の企画・運営を生徒が主体的に行うことができるように指導する。		
6 各学科の活性化			
(食物科)	食の大切さを理解し、食文化の担い手としての自己の役割を自覚させる。 調理師免許を全員取得させる。		
(看護科・看護専攻科)	感性豊かな看護の心を育て、医療の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 看護師国家試験において受験者全員合格させる。		
(福祉科)	感性豊かな福祉の心を育て、福祉の現場の担い手としての自己の役割を自覚させる。 介護福祉士国家試験において受験者全員合格させる。		
(普通科)	ファッションや医療技術への関心を高め進学・就職に対する強い意欲を持たせる。 豊かな感性を育むとともに、進学・就職に対応できるよう学力を高める。		
7 広報活動の活性化			
中学校や地域への発信を確実に	学校通信「杉翠（さんすい）」の発行やホームページをとおして教育活動を発信する。 中学校との信頼関係を構築することができるように中学校訪問時の持参資料や提供情報を工夫する。 普通科2コースの情報発信を徹底する。		

※具体的方策の実施に当たっては、教師や生徒の自己評価において好評価が概ね80%以上となることを目標とする。